



平成28年度 修学生の集い開催報告

茨城県では、昨年12月29日に5回目となる「修学生の集い」を開催し、総勢215名(医学生：140名、医師等：75名)の皆様に参加いただきました。

集いは3部構成で実施し、第1部では、修学生医師及び自治医科大学卒業医師(24名)による症例発表会を行いました。参加者からは「自身の将来像をイメージするうえでとても役に立った(医学生)」「色々な診療科の症例を聞いて面白かった(医師)」などの意見をいただきました。

第2部の記念講演では、本県水戸市出身で「ガリガリ君」の生みの親である赤城乳業株式会社監査役の鈴木政次氏を講師として迎え、「ガリガリ君 誕生秘話ー商品開発の極意ー」と題し、商品開発、マーケティング、マネジメント、組織づくりなどをテーマにこれまでの経験談をお話いただきました。

第3部は交流会を行い、県内医療機関の病院長、指導医、地域医療支援センターキャリアコーディネーター、教育インストラクター、キャリア相談員、地域枠大学協力員、医学生と、幅広い年代の方に参加いただきました。途中、橋本知事がサプライズで登場し、多くの医学生と交流するなど大変意義のある時間となりました。

今後も年に一度開催してまいりますので、ぜひご参加ください。



第1部 症例発表会



第2部 記念講演

プログラム

〈第1部〉症例発表会 ※2会場で同時進行
・修学生医師及び自治医科大学卒業医師(24名)による症例発表

〈第2部〉記念講演
・開会挨拶(松岡保健福祉部長)
・記念講演
演題 ガリガリ君 誕生秘話
ー商品開発の極意ー
講師 鈴木 政次 氏
(赤城乳業株式会社 監査役)

〈第3部〉交流会
・開会挨拶(山口副知事)
・表彰及び講評
・挨拶(橋本知事)
・懇談



第3部 交流会の様子

症例発表会(※順不同)

テーマ	発表者
典型的症状で発症し非典型的神経所見を呈したWallenberg症候群の一例	茨城県立中央病院 秋山 稜介
神経学的に良好な経過を辿った目撃あり心臓停止患者の一例	日立製作所ひたちなか総合病院 中泉 太佑
診断に苦慮した統合失調症様障害の一例	茨城県立中央病院 山下 将太
中枢神経原発悪性リンパ腫治療中ニューモシス肺炎を発症した一例	茨城県立中央病院 飯島 一飛
高度な意識障害が遷延した低血糖脳症の一例	常陸大宮済生会病院 仲田 真依子
心不全を伴う腎不全で受診した若年男性の一例	水戸済生会総合病院 椎名 映里
骨折治療入院中に判明した胸髄腫瘍の一例	筑波大学附属病院 奥脇 駿
開腹歴のない腸閉塞の一例	日立製作所ひたちなか総合病院 松尾 康平
フルニエ壊疽後の殿部潰瘍に対し分層植皮術を行った一例	水戸済生会総合病院 沢田 歩
魚骨によるS状結腸穿孔の一例	常陸大宮済生会病院 柳橋 進
遊走脾に伴う胃軸捻転症に対して腹腔鏡下胃・脾固定術を施行した一例	茨城県立こども病院 田中 尚
上腸間膜動脈症候群を疑う画像所見を呈した空腸癌の一例	水戸済生会総合病院 宗像 紅里
うつ病と睡眠時無呼吸症候群を合併した一例	茨城県立中央病院 真下 翔太
C型肝炎治療経過中にネフローゼ症候群を呈した一例	日立製作所日立総合病院 近藤 泉
統合失調症の再発に対して持効性注射製剤を導入した一例	茨城県立中央病院 井口 裕介
救急外来で経験した皮膚軟部組織感染症の一例	水戸済生会総合病院 藤田 開
孤発性腹腔動脈解離の三例	北茨城市民病院 角 総一郎
運動時失神を繰り返す左冠動脈右冠動脈洞起始の小児例	茨城県立こども病院 淵野 玲奈
本態性血小板血症の経過中に脳梗塞をきたした一例	日立製作所日立総合病院 小野田 翼
右肺優位の陰影を呈し当初大葉性肺炎と診断された感染性心内膜炎による急性心不全の一例	水戸協同病院 川嶋 久恵
胸水貯留で発症し悪性リンパ腫類似の所見を呈した脾原発血管肉腫の一例	日立製作所日立総合病院 生田目 知尋
無症候性冠動脈狭窄を合併した閉塞性動脈硬化症の一例	山形大学医学部附属病院 宮地 隆浩
精神発達遅滞のため治療に難渋した一例	水戸済生会総合病院 金野 直言
受傷後一度独歩で帰宅した環椎破裂骨折(Jefferson骨折)の一例	水戸赤十字病院 戸塚 翔

「医師が少ない地域だから、自分が将来的にやりたい医療をするための準備ができます」

小児科医として桜川地区の地域医療を支えてこられ、県西総合病院の四代目病院長でもある中原智子先生に、県西地区の医療事情や仕事のやりがいなどについてお話を伺いました。

…医師を志したきっかけと、これまでの経歴をお聞かせください。

私は、県西総合病院のある桜川市（旧岩瀬町）の出身です。医師になろうと思ったのは高校2年生の頃。祖母が胃がんを患い、親戚の医師と当時のこの病院の院長が1日おきに往診に来てくださっていました。その姿を見て、医師になりたいと思いました。

筑波大学医学専門学群に進学し、卒業後は大学で4年間レジデントをして、その後1年間この病院の小児科で働いたあと大学に戻り、7年目にこの病院に就職しました。それから、ずっと県西総合病院で、小児科地域医療専門です。

●生まれ育った地域だからこそできる診察や治療、予防をしていきたい。

…小児科を立ち上げたのは先生がいらしてからですか？

当時この辺りには小児科の入院病棟は下館市にしかなく、この病院も外来だけは筑波大学から先生が来てくださっていたのですが、病棟はありませんでした。小児科病棟を立ち上げたのは私が最初に病院に来てすぐ、昭和59年のことです。

…桜川市近辺の医療事情と、先生の考えていらっしゃる地域医療のあり方は？

筑西・桜川は鹿行や県北に並ぶくらい医師が少ないのですが、車で自治医大までは30分ほどで行けますし、南の地

県西総合病院
病院長
中原 智子



域だと筑波大まで30分ほどで着きます。東側の地域は高速を使えば水戸や県立中央病院にも短時間でいけますから、アクセス面では他の医師不足地域より多少恵まれていると思います。

私はここで生まれ育ってきたので、地域の高齢者の方とは親戚や近所の方のような感覚でいます。県西総合病院はもともと国保の病院で、本当の地域医療を担ってきました。地域や住民の生活・家族背景を知り、そこまで入り込んだ診察や治療、予防ができることが利点であると思っています。私はもう36年小児科医をしていますから、小児科の患者さんは名字を聞けば住所がわかってしまう、親子二代で患者さんという方もいます。歩く戸籍係のようなものです（笑）

●子育てと仕事の両立が大変だった実体験があるから、働く女性をサポートしたい。

…医師になられてから、結婚・出産をされていますね？

子どもは、双子を含めて4人います。第一子の出産は昭和56年でしたが、その頃、育休はありませんでした。産休も出産前後6週ずつで、すぐに現場に復帰しました。この病院に着任したのも、双子出産の6週後です。三度目の出産はこの病院に勤務している時で、その時も同じ様に復帰しまし

た。今では考えられないですね。

…仕事と家庭の両立で大変だったことはありますか？

無我夢中でやってきたのですが、子育てと仕事の両立は大変でした。子どもたちが小学生の時は隣にある小学校の授業参観や運動会に行けないこともあり、それは辛かったです。子供たちは我慢してくれていたと思います。あの時があったからこそ、今このように働いていられるというのもあります。子どもたちに対しての想いは深く心に残っています。働く女性がそのような後悔をしないようにサポートしたいと思っています。

●地域に対する思いと職員に対する思いから取り組んだ病児保育。

…県西総合病院では、病児保育事業に取り組んでいらっしゃいますね？

市で展開している子ども子育て支援や次世代育成事業に委員として出席していたのですが、事業のひとつに“病児保育”という項目があるけれども、該当施設がない状況が続いていました。このままにはしておけない、ぜひやりたいと思いました。私も大学病院勤務の時に子どもが発熱し、当直を代わっていただいた経験があります。厳しい就業環境の中、子どものことで休むと、その人の職業的な人生を変えてしまうこともあると思います。同じような思いをしているお母さんたちがきついているから、できるだけ力になりたいという思いがあります。また、ここで働く看護師や女性医師も、子どもが病気になった時に預ける場所があれば安心して働けます。地域に対する思いと職員に対する思いの二つがあって、取り組みました。

…いつ頃から始められたのですか？

計画は私が院長になってまもなくの平成26年4月から準備を始め、27年の12月にスタートしました。定員は1日6名、1回の利用期間は連続7日までで、小学校6年生まで預かりま

す。専属の保育士2名と看護師1名が対応します。実際には小学生の利用よりも乳幼児が多いです。有料ですが朝食も提供できますし、お薬も院内で処方し、お子様をすぐ預かるようにしていますので好評です。リピーターになる方が多いです。

…今後の展望や課題についてはいかがでしょう？

病児保育については、近隣では結城の城西病院で行っており、白石副院長に施設を見学させていただき、当院での開設に弾みがつきました。今後、病児保育のネットワークを作り、連携がとれれば施設の有効活用につながると考えています。病児保育の認知度をさらに高めて、利用者をもっと増やしていきたいですね。発達が遅れている子ども、寝たきりの子どもを預かって欲しいという相談もあります。泊まりで預かるレスパイトケアもやっているのですが、“病児”をどう捉えるか、在宅の寝たきりの子どもを病児と捉えて困った時に預かれるのか、その辺りもまだ内部での意思統一・設備がないので試行錯誤しています。できるだけ広く、困った時にはすぐに預かれる体制づくりをして、地域のお母さんを応援したいと考えています。

また、地域包括ケアシステムの一環として、高齢者への取り組みも考えています。独居の方、昼間一人で過ごしている方が、体調が悪い時に一人で家にいるのは心配な時もあります。そのような時に、ご家族が安心できるような体制づくりをしたいと考えています。

…若手医師や医学生に向けてメッセージをお願いします。

医師が多いところでは、いろいろ教えていただけると思いますが、医師が少ないところでは、自分が将来的にやりたい地域医療をするための準備ができます。患者さんに密接に近づいて、将来を見据えた下地を作れます。それは楽しい一面でもあるので、ぜひ茨城に来てください。やりがいは、あると思います。

病院紹介 コーナー 総合守谷第一病院 (茨城県守谷市松前台1-17)



当院には母子周産期医療もこれから訪れる高齢化社会への対応も共に求められています。そのためすべての科がそろっている大学病院とは違い、専門にこだわることなく幅広く診療しなくてはなりません。先輩医師は専門分野を生かしつつ各科の医師と協力して患者さんと向き合っており、研修医の先生にも自らの可能性を狭めることなく、総合的に診療できる医師を目指してほしいと考えています。（副院長 遠藤優枝）

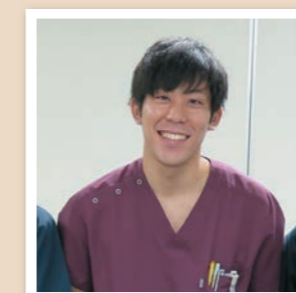
守谷市は、都心から約40km圏内という立地条件を生かし、早期から常磐高速道路、つくばエクスプレスという交通路を計画して都市基盤整備を進めてきた結果、「住みやすさランキング」では過去に全国1位を取得、以後も県内では常にトップを維持し、「活力ある都市ランキング」でも2015年全国8位を記録するなどしています。その結果、人口増加率は県内1位、全国でも3位でした。当院は、こうした街づくりが進む中、1990年4月に当地に開院し、2002年2月 守谷市の誕生、2005年8月 つくばエクスプレス開業という市の発展とともに歩んできました。2014年には社会医療法人となり、新棟も完成しました。まだまだ若い発展途上の都市であり、

研修医リレーエッセイ

水戸済生会総合病院

研修医 柳橋 亮太

医師として働き始めてもうすぐ1年になろうとしています。4月の頃と比べると病棟や救急外来でできる仕事も多くなり、充実した研修を送っています。



当院は3次救急指定病院であり、ドクターカーやドクターヘリを含む高度な救急医療を学ぶことができます。実際に現場に行き上級医や看護師と協力し救急医療にあたっています。このような経験ができるのはドクターカーやド

クターヘリがある病院ならではの経験だと思います。それに連関して当院では、年2回水戸協同病院さんと協力して水戸医学生セミナーという救急医療や総合診療について学ぶ医学生向けのセミナーが開催されています。病院のスタッフや救急士の方々にも協力していただき実際の救急医療の現場に近いメディカルラリーの形で行われます。学生向けとはいえながらも研修医にとっても難易度が高く、非常に勉強になるセミナーです。夏のセミナーではなかなかうまくできなかったのですが再度勉強し直す良いきっかけになりました。そこでの経験は日々の救急当直にも生かされているように思います。

興味を持った方がいたらぜひセミナーに参加してみてください！また、病院見学にいらして当院の雰囲気味わってください！

■県内臨床研修病院 病院見学対応状況

	医療機関名	見学時間	対象	宿泊	問い合わせ先
1	水戸赤十字病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：企画課 澤橋 T E L：029-221-5177(内線3155) E-mail：kikaku@mito.jrc.or.jp
2	水戸協同病院	随時(平日)	全学年	お問い合わせ下さい	担当者：秘書室医局秘書 福家 T E L：029-231-2371 E-mail：residency@mitokyodo-hp.jp
3	水戸済生会総合病院	随時(平日)	全学年	院内施設に宿泊可能(無料)	担当者：臨床研修センター 山本、平根、廣木 T E L：029-254-5151 E-mail：resident@mito-saisei.jp
4	独立行政法人国立病院機構 水戸医療センター	随時(平日)	5～6年生	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者：教育研修部長 米野 琢哉 T E L：029-240-7711 E-mail：t.komeno.d@mn.hosp.go.jp
5	茨城県立中央病院	随時(平日)	全学年	院内宿泊施設利用可(応相談)	担当者：臨床研修センター 鶴井、田口 T E L：0296-77-1121(内線5777) E-mail：kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp
6	株式会社日立製作所 日立総合病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：総務グループ 川和 T E L：0294-23-1111(内線6636) E-mail：saiyou.nichibyo.nx@hitachi.com
7	株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院	随時(平日)	4～6年生	院内施設に宿泊可能 ※場合により近隣の宿泊施設を紹介	担当者：教育・研修センター 上村、渡辺、星野 T E L：029-844-6841 E-mail：saiyou.nakabyo.op@hitachi.com
8	土浦協同病院	随時(平日)	全学年	学生用宿舎に宿泊可能 (無料・応相談)	担当者：庶務課 中島、白田 T E L：029-830-3711 E-mail：general@tkgh.jp
9	独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター	随時	全学年	可能※事前申し込み要(無料) 院内施設宿泊可能	担当者：企画課庶務係長 T E L：029-822-5050 E-mail：kasumisomyu@kasumi-hosp.jp
10	筑波記念病院	随時	全学年	可能(無料) 院内の施設宿泊可能	担当者：臨床研修担当 古矢、初澤 T E L：029-864-1212 E-mail：furya@tukuba-kinen.or.jp
11	筑波大学附属病院	随時(平日)	全学年	可能 学内宿泊施設等 料金：2,500円～3,000円	担当者：病院総務部総務課(総合臨床教育センター係) T E L：029-853-3516、3523 E-mail：kensyu@un.tsukuba.ac.jp
12	筑波メディカルセンター病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：人事課 木村 T E L：029-851-3511 E-mail：kensyu@tmch.or.jp
13	筑波学園病院	随時(平日)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：人事部 笹島 T E L：029-836-1286(内線2341) E-mail：kei-kikaku@gakuen-hospital.or.jp
14	東京医科大学茨城医療センター	随時(平日)	全学年	研修医宿舎に宿泊可能 (無料・要確認)	担当者：卒後臨床研修センター 事務局 T E L：029-877-1161(代表) E-mail：ksotsugo@tokyo-med.ac.jp
15	牛久愛和総合病院	随時(月～土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：人事部 白澤、雨宮 T E L：029-873-3111 F A X：029-874-1031 E-mail：jinji@jojinkai.com
16	つくばセントラル病院	随時(平日・土)	全学年	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：経営企画課 久松辰男 T E L：029-872-1771 F A X：029-874-4763 E-mail：tatsuo.hisamatsu@central.or.jp
17	JAとりで総合医療センター	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：庶務課 玉田、黒澤 T E L：0297-74-5551 E-mail：toride@medical.email.ne.jp
18	総合守谷第一病院	随時(平日)	5～6年生	近隣の宿泊施設を紹介	担当者：佐川俊英 T E L：0297-45-5370 E-mail：sagawa@moriya.daiichi.or.jp
19	友愛記念病院	随時(平日・土)	5～6年生	遠方者には宿泊先を提供	担当者：労務・人事課 稲見 T E L：0280-97-3000 E-mail：yuai@yuai-hosp-jp.org
20	茨城西南医療センター病院	随時(平日)	全学年	可能(無料)研修医の宿舎に 宿泊可能(要確認)	担当者：秘書室 島田または庶務課 佐藤 T E L：0280-87-8111 E-mail：shomuka@seinan-mch.or.jp

茨城県からのお知らせ

修学生・修学生医師およびi-doctorご登録住所の確認について

いつも「いばらきの地域医療」をご愛読いただき誠にありがとうございます。

修学生・修学生医師および i-doctor ご登録で本誌郵送を希望されている方におかれましては、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら「茨城県地域医療支援センター」(下記)までぜひご連絡ください。新しい住所へお届けします。

なお、i-doctor ご登録情報の変更については、地域医療支援センターホームページ内の“i-doctor お申込受付”でも承っております。よろしくお願いたします。

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内)TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp